

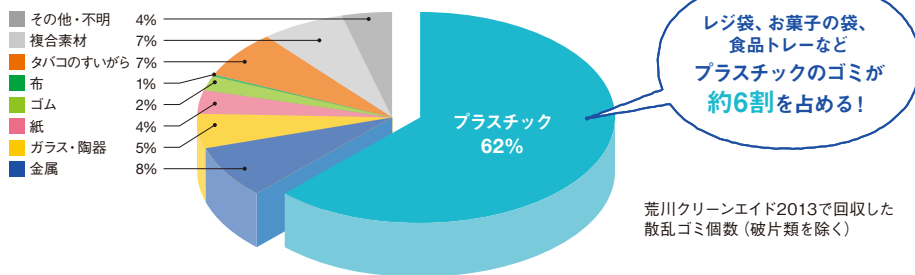
## 川のゴミの現状 ～荒川の場合～

## 川ゴミから、大量消費社会が見える

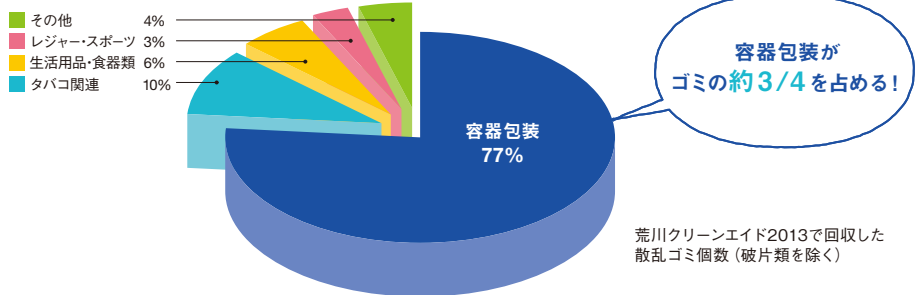
荒川で「調べるゴミ拾い」を行った結果、素材別にはプラスチックゴミが約6割、用途別には容器包装ゴミが約3/4を占めていることがわかりました。いずれも、大量生産・大量消費社会の産物ではないでしょうか。ただ、買い物をするときにレジ袋を断る、包装の少ない物を選ぶなど、私たちの日頃の心がけで、減らすことができるゴミが多くを占めているということもできます。



## 荒川ゴミの素材別割合



## 荒川ゴミの用途別割合



## 人の気づきにより減ったゴミ

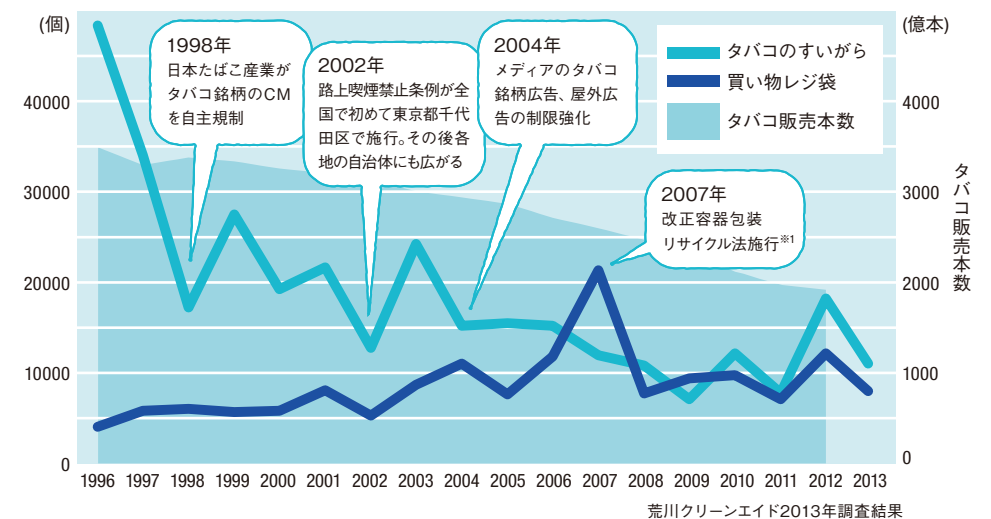
ここまで、荒川のゴミの深刻な問題について取り上げてきました。ゴミはたしかに増える一方です。ただ、その一方で減ったゴミもあることを皆さんはご存じでしょうか。

例えば、タバコのすいがら。タバコのすいがらは20年前に比べるとずいぶん減っています。喫煙者が減ったこともあるでしょうが、マナーの向上によりタバコのポイ捨てが少なくなったことが大きいようです。

また、レジ袋は増え続けていましたが、2007年をピークに減少傾向にあります。小売業界のレジ袋削減の取り組みや、生活者のマイバッグへの移行などが関係しているでしょう。

人が気づき行動すれば、ゴミは減っていくのです。そして、人の意識や行動には、条例などルール作りも大きく関わっています。人の気づき。それがすべてのきっかけになるのかもしれない。

## 荒川で回収されたタバコのすいがら、レジ袋数の推移



※1 この改正の中でレジ袋有料化は条例化されなかったものの、国が定めるガイドラインにしたがって、レジ袋の有料化やマイバッグの配布など、容器包装廃棄物の排出抑制を促進する取り組みが求められてきました。

注) タバコ販売本数は、(社)日本たばこ協会「紙巻きたばこ統計データ」の紙巻たばこ販売本数より